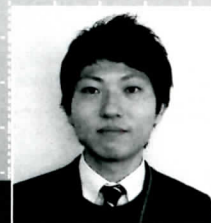


子ども同士が関わりあい、 想像を広げながら表現する

第3学年国語

「詩を読もう」の実践を通して



新潟市立大通小学校 教諭 高橋 了

1 課題および課題解決の手だて

子どもたちは、獲得した知識や技能を活用し、表現する力が、まだ十分についているとは言えない。身につけた知識や技能を活用するためには、それを表現する場が必要である。日々の授業の中で、言葉を通して一人一人の感じたことや考えたことを交流することで、想像を広げながら表現することのできる子どもを育てたい。

詩には作者が想像した情景や思いが表現されている。詩を読み取った時の面白さを、伝わりやすく表現できるようにするために「交流」を取り入れる。

2 指導のポイント

個人思考
詩を選び、面白さを伝える表現を考える。
交流
小グループで意見交流し、表現について考えを深める。
活用
意見交流から深めた考えを基に、表現を工夫する。
発表会
工夫した表現を使って発表する。



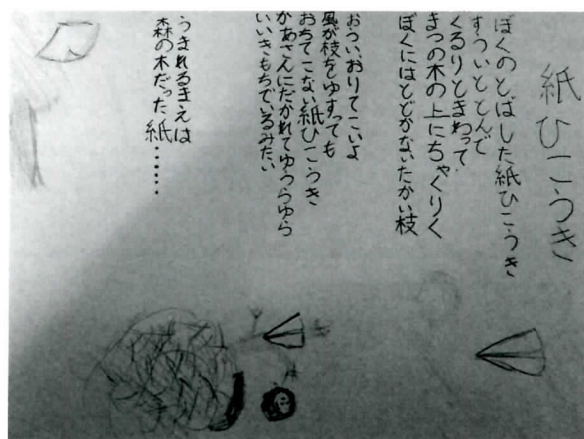
3 授業の実際

(1) 詩を選び、伝え方を考える

子どもたちに、自分が一番気に入った詩の面白さや魅力を表現しようという、単元のゴールを示した。

使用した詩は教科書の二編だけでなく、他に二編の詩を教師が用意し、子どもたちが自由に選べるようにした。

子どもたちは発表する詩を選ぶ過程と平行して、伝え方も話し合った。①「ミュージカルのように身体を動かして表現する」、②「ポスターを書いて表現する」、③「紙芝居にして表現する」などの方法が挙げられた。



※「ポスターを書いて表現する」の一例

(2) 詩と表現を「交流」し、考えを深める

子どもたちは四編の詩から、より面白く感じる詩を選んで、それに合った伝え方を考えた。

子どもたちが考えた詩の伝え方の例

- A児『紙ひこうき』→ポスター
- B児『どきん』→身体の動き
- C児『おならうた』→身体の動き
- D児『夕日がせなかをおしてくる』→紙芝居

各班で自分が選んだ詩の面白さと、その詩の伝え方について話し合いをした。『紙ひこうき』は絵を描くと詩の様子が伝わりそうだな。『どきん』は身体を動かすと面白そうだよ。子どもたちは自分では思いつかなかった新たな伝え方に気付くことができた。交流をしてから、一人一人実際に詩の面白さを伝えるのに最もふさわしいと考える伝え方を決定した。



子どもが考えた伝え方で練習をした後、同じ伝え方を選んだ子どもどうしでグループを作り、お互いの表現が詩の面白さを伝えるのに適切かどうか付箋にアドバイスを書き合うことにした。「場面ごとに、紙ひこうきの絵を描くと分かりやすいよ。」「だれかがふりむいた、のところで本当に振り向いてみたら、『どきん』の感じが伝わるよ。」など、付箋に書かれたアドバイスを基にして子どもたちは絵の描き方を変えたり、動き方を変えるなどして、新たな表現を模索していった。

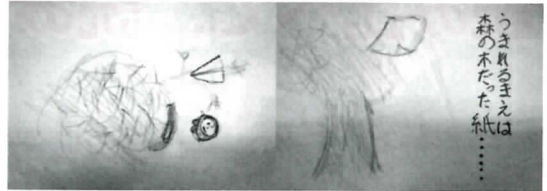
子どもからは「最初やろうと思っていた動きよりも、友だちと一緒に考えた振り向く動きの方が、『どきん』の感じが伝わると思って変えました。」という振り返りがあった。

「交流」から自分の表現を変更した例

A児『紙ひこうき』

(交流前) 紙ひこうきの絵を一つ描く

(交流後) 場面の様子が伝わるように、紙ひこうきの絵と木の絵を描き足す



交流後に描き足した絵

B児『どきん』

(交流前) 「だれかがふりむいた！」の身体表現なし

(交流後) 「どきん」とした様子が伝わるように振り向く動きを加えて表現する



振り向きなし

振り向きあり

(3) 交流を基にした表現を使って発表する

自分が選んだ詩の面白さを伝える方法を練り上げ、学級での発表会を行った。発表の時に友だちのアドバイスによって自分の伝え方がどう変わったかという点を、紹介してから発表した。子どもたちは友だちの発表を見て、『どきん』の発表で、振り返る動きがあったので、分かりやすく感じた。」などと感想をもっていた。

4 おわりに

自分の考えを基にお互いの考えを交流することによって想像を広め、自分の感じた詩の面白さを表現することができた。様々な考えを交流することによって表現が深まる楽しさを、子どもたちは実感できたと考える。今後も日々の実践を重ね、授業改善に取り組みたい。